

本科 2 期 9 月度 1 回目

Z会東大進学教室【体験授業用教材（抜粋版）】

高 2 東大理系数学Ⅲ



M2JD Term 2 Contents

Lecture 1	2次曲線(1) 放物線, 楕円	1
1.1	放物線	1
1.1.1	標準形	1
1.2	楕円	2
1.2.1	標準形	2
1.2.2	接線	3
1.2.3	パラメータ表示	3
1.3	曲線の平行移動	4
1.4	演習問題	5
1.5	添削課題	12
Lecture 2	2次曲線(2) 双曲線, 離心率	13
2.1	双曲線	13
2.1.1	標準形	13
2.1.2	接線	14
2.1.3	パラメータ表示	14
2.2	離心率	15
2.3	演習問題	16
2.4	添削課題	22
Lecture 3	2次曲線(3) 極座標と極方程式	23
3.1	極座標	23
3.2	極方程式	24
3.2.1	定義	24
3.2.2	直線, 円の極方程式	24
3.2.3	2次曲線の極方程式	25
3.3	演習問題	27
3.4	添削課題	33

Lecture 4	積分法 (1) 不定積分と定積分	35
4.1	不定積分	35
4.1.1	原始関数	35
4.1.2	不定積分	36
4.1.3	線型性	36
4.1.4	x^α の不定積分	36
4.1.5	3 角関数, 指数関数の不定積分	37
4.2	合成関数の微分法の逆	40
4.2.1	その 1	40
4.2.2	その 2	40
4.3	定積分	43
4.3.1	性質	43
4.4	演習問題	44
4.5	添削課題	50
Lecture 5	積分法 (2) 部分積分と置換積分	53
5.1	部分積分法	53
5.1.1	不定積分の部分積分法	53
5.1.2	定積分の部分積分法	54
5.2	置換積分法	57
5.2.1	不定積分の置換積分法	57
5.2.2	定積分の置換積分法	59
5.3	偶関数, 奇関数	64
5.3.1	定義	64
5.3.2	定積分における性質	64
5.4	演習問題	65
5.5	添削課題	70
Lecture 6	積分法 (3) 面積	71
6.1	面積	71
6.2	演習問題	74
6.3	添削課題	79
Lecture 7	積分法 (4) 回転体の体積	81
7.1	体積	81
7.1.1	微小体積の和	81
7.1.2	回転体	81

7.2	演習問題	83
7.3	添削課題	87
Lecture 8	積分法 (5) 非回転体の体積	89
8.1	非回転体の体積	89
8.2	演習問題	91
8.3	添削課題	95
Lecture 9	積分法 (6) 曲線のパラメータ表示と求積	97
9.1	座標を定める変数	97
9.1.1	定義	97
9.1.2	自分自身と交わる曲線	97
9.2	パラメータ (媒介変数) 表示された関数の微分法	98
9.3	曲線の概形	99
9.3.1	パラメータ消去	99
9.3.2	パラメータ表示された関数の微分	100
9.4	面積の計算	103
9.5	演習問題	107
9.6	添削課題	111
Lecture 10	積分法 (7) 曲線の長さ	113
10.1	曲線の長さ	113
10.1.1	$y = f(x)$ と表される場合	113
10.1.2	$x = f(t), y = g(t)$ と表される場合	114
10.2	演習問題	117
10.3	添削課題	121
Lecture 11	積分法 (8) 区分求積法	123
11.1	区分求積法	123
11.1.1	区分求積法 その1	123
11.1.2	区分求積法 その2	124
11.1.3	Riemann 和	125
11.2	演習問題	127
11.3	添削課題	131
Lecture 12	積分法 (9) 定積分と方程式	133
12.1	微積分学の基本定理	133
12.2	演習問題	134

12.3	添削課題	138
Lecture 13	積分法 (10) 定積分の評価	139
13.1	定積分と不等式	139
13.2	演習問題	143
Appendix A	微分計算の手法 (再掲)	151
A.1	微分係数と導関数	151
A.1.1	平均変化率	151
A.1.2	微分係数	151
A.2	導関数	153
A.2.1	定義	153
A.2.2	線型性, 積, 商の微分法	153
A.2.3	合成関数の微分法	155
A.2.4	逆関数の微分法	156
A.2.5	陰関数の微分法	157
A.2.6	$y = x^\alpha$ の導関数	158
A.3	指数関数, 対数関数の導関数	160
A.3.1	指数関数の導関数	160
A.3.2	対数関数の導関数	161
A.4	対数微分法	162
A.4.1	基本	162
A.4.2	$y = x^\alpha$ の導関数の導出	162
A.5	3 角関数の導関数	163
A.6	高階導関数	164
Appendix B	補足的事項	167
B.1	パラメータ表示の図形的解釈	167
B.1.1	円	167
B.1.2	双曲線	168
B.2	転換法	169
B.3	拡大実数系	170
B.4	数列の極限について	171
B.4.1	$\varepsilon - N$ 論法	171
B.4.2	正整数が上に有界でないこと	172
B.4.3	数列の収束の図形的イメージ	173
B.4.4	いくつかの証明	173

B.4.5	はさみうちの原理の証明	175
B.5	数列の収束について	176
B.5.1	上界, 下界, 上限, 下限	176
B.5.2	有界で単調な数列が収束すること	177
B.6	合成関数の微分法の証明	178
B.7	ベクトルの微分とパラメータ表示された関数の微分法	180
B.8	積分の平均値定理	181
B.9	極方程式と面積	182
B.10	Gauss - Green の定理	183

Introduction

本講座では、数学Ⅲの極限、微分法、積分法、2次曲線を基礎から学びます。（極限、微分法は本科1期で扱いました。複素数平面は冬期講習で扱います。）基本的な*¹内容、用語の理解、微分、積分の計算力をつけることを目標としています。

予習

- 本講座は、原則として予習は不要です。復習をしっかりと行いましょう。
- やむを得ず欠席した場合は、要点などを自分で読み、担当の先生に相談すること。
- 演習問題は授業で扱います。特に指示がなければ予習はしないこと。

授業

- 演習用と、板書用の2種類のノートを用意するとよいと思います（強制はしません）。
- 数学Ⅲは、他の単元と比べて前後の相関が強いです。1回分の内容を理解していないと、次の内容に進めません。原則として、遅刻、欠席はしないようにしましょう。

復習

- 授業で学んだことを確認し、定着させましょう。
- 授業で学んだことの復習は、その週のうちに終わらせましょう。
- 毎週の添削課題を必ず提出してください。*²
- 授業に出席すれば数学が身につくわけではありません。自分の手で証明をし、自分の手で計算をすること。*³

*¹ 「簡単」という意味ではありません。基本とは、応用のための基礎、土台です。

*² 学習のペースメーカーとして、また次回の授業までに身につけなければならないことの復習として実施するものです。提出の遅れは原則として認めません。

*³ 理系は、「極限、微積分の計算が淀みなくできること」が必要条件です（十分性はない）。復習するときは、当面の目標として重要な計算例全てをスムーズに計算しきることを、目指すとよいでしょう。

表記法について

- 実数の区間.

- † 开区間 $a < x < b$ を (a, b) と表す.

- † 閉区間 $a \leq x \leq b$ を $[a, b]$ と表す.

- † 半开区間 $a \leq x < b$, $a < x \leq b$ をそれぞれ $[a, b)$, $(a, b]$ と表す.

- 集合の記号.

- † 実数全体の集合を \mathbb{R} と表す.

- † 整数全体の集合を \mathbb{Z} と表す.

- † 正整数全体の集合を \mathbb{N} , または \mathbb{Z}^+ と表す.

- このテキストでの約束.

- 例 ごく基本的な計算例です. 講義を欠席するなどして自習する際には, 読み飛ばさず, しっかりと手で書きながら確認しましょう.

- 例題 その講の内容を理解するための, 具体的な問題. 多少難しいものも含まれますが, 内容理解のため必要な問題です.

- 演習問題 その講で絶対に身につけなければいけない, 基本的な問題例です.

- 添削課題 その講の内容を定着させるための課題です. 次週までに所定の用紙に解答を作成, 提出しましょう.

Lecture 1 2次曲線(1) 放物線, 楕円

1.1 放物線

1.1.1 標準形

ある条件を満たしながら動く点の描く図形を, 軌跡と呼ぶ. ここでは, 特定の条件についての軌跡がどのような図形を描くか考える.

定義

平面上の定直線 L と, L 上にない定点 A からの距離が等しい点の集合を, 放物線という.

放物線の方程式 (1)

焦点を $(p, 0)$, 準線を $x = -p$ とする放物線の方程式は

$$y^2 = 4px$$

放物線の方程式 (2)

焦点を $(0, p)$, 準線を $y = -p$ とする放物線の方程式は

$$x^2 = 4py$$

例 1.1

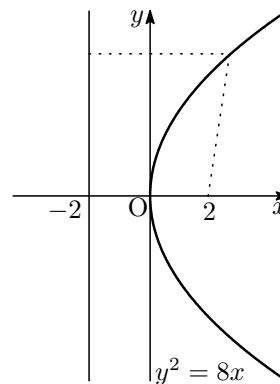
$$y^2 = 8x$$

で表される放物線は

$$y^2 = 4 \cdot 2x$$

より, 焦点が $F(2, 0)$, 準線の方程式が $x = -2$ である.

図示すると, 右図の通り.



1.2 楕円

1.2.1 標準形

定義

平面上の異なる 2 点 F, F' からの距離の和が一定である点の軌跡を、楕円という。

楕円の方程式 (1)

$a > b > 0$ とする。

$$\frac{x^2}{a^2} + \frac{y^2}{b^2} = 1$$

は、焦点が 2 点 $(\pm\sqrt{a^2 - b^2}, 0)$ (これらを F, F' とする) である楕円の方程式であり、楕円上の任意の点 P について

$$PF + PF' = 2a$$

が成り立つ。

楕円の方程式 (2)

$b > a > 0$ とする。

$$\frac{x^2}{a^2} + \frac{y^2}{b^2} = 1$$

は、焦点が 2 点 $(0, \pm\sqrt{b^2 - a^2})$ (これらを F, F' とする) である楕円の方程式であり、楕円上の任意の点 P について

$$PF + PF' = 2b$$

が成り立つ。

例 1.2

$\frac{x^2}{9} + \frac{y^2}{4} = 1$ で表される楕円は

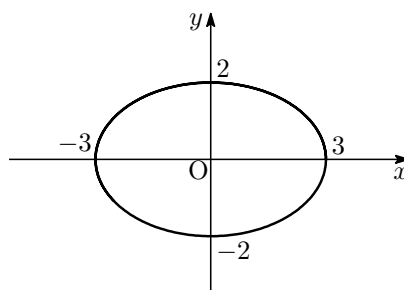
$$a = 3, b = 2$$

より、焦点の座標を $(\pm c, 0)$ とすると

$$c^2 = a^2 - b^2 = 5$$

より、焦点は $(\pm\sqrt{5}, 0)$ である。

図示すると、右図の通り。



1.2.2 接線

楕円の接線

楕円 $\frac{x^2}{a^2} + \frac{y^2}{b^2} = 1$ ($a > 0, b > 0$) 上の点 (x_0, y_0) における接線の方程式は

$$\frac{x_0x}{a^2} + \frac{y_0y}{b^2} = 1$$

陰関数の微分, また, 円との相似拡大, 縮小の関係から導かれる.

例 1.3

楕円 $x^2 + \frac{y^2}{2} = 1$ 上の点 $(\frac{1}{3}, \frac{4}{3})$ における接線の方程式は

$$\frac{1}{3}x + \frac{4}{3} \cdot \frac{y}{2} = 1 \quad \therefore x + 2y = 3$$

例 1.4

楕円 $\frac{x^2}{8} + \frac{y^2}{4} = 1$ 上の点 $(-2\sqrt{2}, 0)$ における接線の方程式は

$$\frac{-2\sqrt{2}x}{8} + \frac{0 \cdot y}{4} = 1 \quad \therefore x = -2\sqrt{2}$$

1.2.3 パラメータ表示

楕円のパラメータ表示

楕円 $\frac{x^2}{a^2} + \frac{y^2}{b^2} = 1$ ($a > 0, b > 0$) のパラメータ表示は

$$(x, y) = (a \cos \theta, b \sin \theta)$$

例 1.5

楕円 $\frac{x^2}{9} + \frac{y^2}{5} = 1$ のパラメータ表示は

$$x = 3 \cos \theta, y = \sqrt{5} \sin \theta$$

1.3 曲線の平行移動

— 2 次曲線の平行移動 —

曲線 $f(x, y) = 0$ を x 軸方向に $+a$, y 軸方向に $+b$ 平行移動した曲線の方程式は

$$f(x - a, y - b) = 0$$

例 1.6

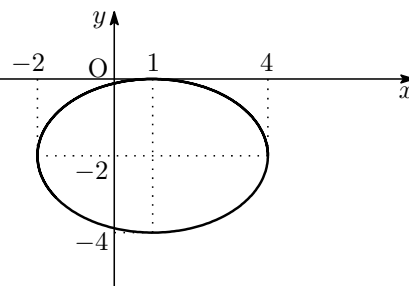
楕円 $C : \frac{(x-1)^2}{9} + \frac{(y+2)^2}{4} = 1$ は,

楕円 $C' : \frac{x^2}{9} + \frac{y^2}{4} = 1$ を x 軸方向に 1, y 軸方向に -2 平行移動した曲線である.

C' の焦点の座標は $(\pm\sqrt{5}, 0)$ なので, C の焦点の座標は

$$(\pm\sqrt{5} + 1, -2)$$

右図の通り.



1.4 演習問題

演習問題 1 - 1

1 次の放物線の焦点の座標, 準線の方程式を求め, 曲線の概形を図示せよ.

(1) $y^2 = 12x$ (2) $x = -\frac{1}{2}y^2$ (3) $y = \frac{1}{4}x^2$

2 次の放物線の焦点の座標, 準線の方程式を求め, 曲線の概形を図示せよ.

(1) $x = -6(y - 3)^2 + 1$ (2) $y^2 - 4x - 2y + 13 = 0$

3 焦点, 準線, 頂点が次のよう与えられる放物線の方程式を求めよ.

(1) 焦点 $(5, 0)$, 準線 $x = -5$ (2) 焦点 $(0, -\frac{1}{3})$, 準線 $y = \frac{1}{3}$
(3) 焦点 $(3, 1)$, 頂点 $(3, 0)$ (4) 焦点 $(-3, 2)$, 準線 $x = 1$

演習問題 1 - 2

1 次の楕円の焦点の座標を求めよ。また、曲線の概形を図示せよ。

$$(1) \frac{x^2}{25} + \frac{y^2}{9} = 1 \qquad (2) \frac{x^2}{4} + \frac{y^2}{16} = 1 \qquad (3) \frac{x^2}{10} + \frac{y^2}{2} = 1$$

$$(4) \frac{x^2}{6} + \frac{y^2}{8} = 1 \qquad (5) 4x^2 + 9y^2 = 36$$

2 次の楕円の焦点の座標を求めよ。また、曲線の概形を図示せよ。

$$(1) \frac{(x-1)^2}{12} + \frac{(y+2)^2}{4} = 1 \qquad (2) \frac{(x+1)^2}{3} + \frac{(y-1)^2}{4} = 1$$

演習問題 1 - 3

次の条件を満たす楕円の方程式を求め、図示せよ.

- (1) 焦点が $(2, 0)$, $(-2, 0)$, 焦点からの距離の和が 8
- (2) 焦点が $(0, 5)$, $(0, -5)$, 焦点からの距離の和が 14
- (3) 焦点が $(3, 0)$, $(-3, 0)$ であり, 点 $\left(-4, \frac{12}{5}\right)$ を通る

演習問題 1 - 4

次の問いにそれぞれ答えよ.

(A) 楕円 $\frac{x^2}{3} + y^2 = 1$ 上の点 $\left(1, \frac{\sqrt{6}}{3}\right)$ における接線の方程式を求めよ.

(B) 楕円 $E: \frac{x^2}{12} + \frac{y^2}{4} = 1$ について, 点 $(1, 3)$ から E に引いた 2 本の接線の方程式を求めよ.

演習問題 1 - 5

放物線 $y = x^2$ の焦点を $F(0, p)$, 放物線上の点を P , 線分 PF と円 $x^2 + y^2 - 2py = 0$ との交点の座標を A , P から x 軸に下ろした垂線の足を H とする.

- (1) p の値を求めよ.
- (2) $\triangle PAH$ が正三角形であるとき, その面積を求めよ. ただし, P は第 1 象限にあるものとする.

演習問題 1 - 6

点 $(2, 0)$ と楕円 $\frac{x^2}{2} + y^2 = 1$ の周上の点 P を結ぶ直線が再びこの楕円と交わる点を Q とする. P がこの楕円の周上を動くとき, 線分 PQ の中点の軌跡を求め, 図示せよ.

演習問題 1 - 7

放物線 $y = x^2 \cdots \textcircled{1}$ の焦点を F , $\textcircled{1}$ 上の点 P を通る $\textcircled{1}$ の接線を l , l と y 軸との交点を T , 点 P から出て準線に垂直な直線と x 軸との交点を Q とする.

- (1) 焦点 F の座標, 準線の方程式, l の方程式を求めよ. ただし, 点 P の x 座標は a である.
- (2) $\triangle PFT$ はどのような三角形か答えよ.
- (3) $\angle FPT$ と $\angle QPT$ はどのような関係にあるか答えよ.

1.5 添削課題

添削課題 1-1

1 次の放物線の焦点の座標, 準線の方程式を求め, 曲線の概形を図示せよ.

(1) $y^2 = 6x$ (2) $-2y^2 = x$ (3) $8x^2 = y$

2 焦点, 準線が次のよう与えられる放物線の方程式を求めよ.

(1) 焦点 $(2, 0)$, 準線 $x = -2$ (2) 焦点 $(0, -1)$, 準線 $y = 1$
(3) 焦点 $(5, 0)$, 準線 $x = 1$ (4) 焦点 $(-4, 3)$, 準線 $x = 0$

添削課題 1-2

1 次の楕円の焦点の座標を求め, 曲線の概形を図示せよ.

(1) $\frac{x^2}{9} + \frac{y^2}{4} = 1$ (2) $\frac{x^2}{4} + \frac{y^2}{25} = 1$ (3) $\frac{x^2}{2} + \frac{y^2}{3} = 1$

(4) $\frac{x^2}{12} + \frac{y^2}{5} = 1$ (5) $x^2 + 4y^2 = 4$

2 次の条件を満たす楕円の方程式を求めよ.

(1) 焦点が $(3, 0)$, $(-3, 0)$, 焦点からの距離の和が 10

(2) 焦点が $(0, 7)$, $(0, -7)$, 焦点からの距離の和が 18

体験授業をご受講いただく皆さんへ

体験授業をお申し込みいただきありがとうございます。

Z会の教室の授業は、学力を効果的に上げていくためのカリキュラム・内容となっております。次回以降もぜひ継続して受講することをおすすめします。

《体験授業後の流れ》

お申し込み方法

引き続き継続して受講される場合は、各教室窓口・お電話でお申し込みが可能です。
※体験授業終了直後に窓口で申し込んでお帰りになることもできます。
※認定が必要な講座をご希望の方はテストを受験していただく場合があります。
※予習が必要な講座は次回までの予習がありますので、余裕を持ってお申し込みください。
※本科授業は、「クラス授業」「映像授業」が選べます。
※映像授業の体験も承ります。一部の講座では映像授業のご用意がありません。予めご了承ください。

通話料
無料

0120-2828-76

月曜日～土曜日 12:00～20:00
(休室日を除く)

各教室電話番号

御茶ノ水教室	03-5296-2828	池袋教室	03-5985-2828
渋谷教室	03-5774-2828	横浜教室	045-313-2828
新宿教室	03-5304-2828	葛西教室	03-5878-0844

お申し込みから1週間以内に手続書類（入会書類、お支払いについて、会員証など）をお送りします。

※受講料のお支払い期日が次回授業よりも後の場合でも、次回授業へのご参加は可能です。
※体験授業後にご受講いただく場合、「Z会の教室」では「月度」単位で受講料を請求させていただいているため、体験授業分も受講料をご請求する場合があります。くわしくは教室スタッフまでお問い合わせください。

お申し込み後、テキストを各教室窓口にてお受け取りください。

お申し込み後の流れ

※葛西教室にて高1・高2講座・受験講座、Z会進学教室大学受験部立川教室にて高1・高2・受験生講座を開講しております。

講座選択に迷ったら…

学習相談は随時承っています。お電話でのご相談も可能です。

受講に際して不明点、不安な点がある方は、各教室の窓口、または上記番号までお気軽にお問い合わせください。

Z会の教室の受講サポート — 万全のシステムで効果的な学習をサポートします —

1. 講師への質問

授業前後の時間や休み時間を利用して、担当講師に直接質問をすることができます。疑問点をそのままにすることなく、その場で解消することができます。

2. 振替受講

本科のクラス授業で欠席する回の授業を、同一週・同一講座の他のクラスで振替受講することができます。他教室への振替、映像授業（教室・自宅での受講）への振替も可能です。前日までに各教室窓口、お電話にてお申し出下さい。

※振替手続は一週前の月曜から可能です。

3. 進路・学習・入試相談

各教室の学習アドバイザーが皆さんのご相談を随時承っています。

4. 自習室

本科生の方は休室日を除いて、全教室の自習室をいつでもご利用いただけます。